

# Hem21 NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和3年(2021)1月

Vol.  
85

## CONTENTS

- ①～③ 第10回自治体災害対策全国会議
- ③～④ 情報ひろば
- ④～⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター  
MIRAI

## 第10回自治体災害対策全国会議を開催

令和2(2020)年11月12日(木)、13日(金)に第10回自治体災害対策全国会議を開催しました。この会議はその都度異なる形で襲ってくる大災害に対処するため、全国の自治体職員等が知見を共有し、備えを高めようと平成23年度から毎年開催しています。今回は「自治体や地域の災害対応力を強化する」をテーマにオンラインで開催し、自治体職員など全国から約460人が視聴しました。

### 《開催概要》

- (主催) 自治体災害対策全国会議実行委員会
- (共催) (公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構、  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、読売新聞社
- (後援) 全国知事会、全国市長会、全国町村会、指定都市市長会、  
内閣府政策統括官(防災担当)、消防庁、兵庫県、関西広域  
連合、神戸新聞社

(プログラム) 1日目:11月12日(木)

### ●基調講演

「災害対応力を高める - 技術・人材・仕組み」  
林 春男 国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長

### ●基調報告 I

「令和元年東日本台風への対応と教訓 - 気候変動対応型  
まちづくりに向けて」  
品川 万里 福島県郡山市長

### ●講 話

「新型コロナウイルス感染症と災害対応」  
室崎 益輝 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授  
(自治体災害対策全国会議企画部会長)

### ●基調報告 II

「鳥取県における自治体や地域の災害対応力の強化」  
平井 伸治 鳥取県知事

初日は、井戸敏三・実行委員会委員長(兵庫県知事)の主催者あいさつ、柴田岳・読売新聞大阪本社代表取締役社長の共催者代表あいさつに続き、林春男・防災科学技術研究所理事長が「災害対応力を高める - 技術・人材・仕組み」と題して基調講演を行いました。林理事長は、「レジリエンス」(災害に負けない、災害を乗り越える力)を社会全体で高めていくことが問われており、世界標準に即した災害対応業務の標準化に向けて、災害時に何をすべきかを決めておく(What to do)、災害時の振り舞い方を学んでおく(How to do)ことの重要性を指摘しました。アメリカの危機対応組織の編制・運営の事例として、危機対応で必要になる役割には、「指揮者」、ラインと



林理事長

しての「現場での事態対処」、スタッフとしての「対策立案」、「後方支援」、「総務」の5つがあり、それぞれ色を変えたベストを着用することで役割の「見える化」を図り、災害対応を円滑に進

める取り組みなどを紹介しました。

続いて、品川万里・福島県郡山市長が「令和元年東日本台風への対応と教訓 - 気候変動対応型まちづくりに向けて」と題して基調報告を行いました。郡山市では、令和元年東日本台風の襲来により、市内を流れる阿武隈川が氾濫し、大きな被害を受けました。こうした経験から得られた「知



品川市長

川知水」の考え方に基づき、気候変動に柔軟に対応した誰もが安心して快適に暮らせるまちの実現を目指した「郡山市国土強靱化地域計画」のもと、浸水リスクを考慮した多極分散型のまちづくり、3次

元浸水ハザードマップの作成、地元企業との「災害時における車両避難場所等提供協力に関する協定」の締結などの取り組みを紹介しました。

次に、室崎益輝・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授(全国会議企画部会長)が「新型コロナウイルス感染症と災害対応」を取り上げ、リスクの増大が見込まれる複合災害への対応として、コロナにも多様な災害にも対応するための基礎となる「公衆衛生」、命を守る視点から感染防止が



にあたっては、一つは保健福祉部局と防災部局をつなぐ人材が必要であり、福祉の専門職には、一定レベルの研修を通じて防災の知識を習得してもらい、福祉サービスの利用者等の防災への理解を深め、備えの自覚を高める取り組みが必要であるとしました。また、個別支援計画作成の法的根拠を明確にして、必要な財政措置なども講じるよう国に働きかけていくことや、自治体をはじめ関係者間の情報共有のためのプラットフォームづくりなどの提案もなされました。



総括討議

最後に、パネルディスカッションの両座長と五百旗頭真・ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、室崎益輝・兵庫県立大学大学院研究科長が、2日間の会議を振り返って総括しました。防災科学技術研究所の林理事長が紹介されたように、アメリカには情報分析の目標をどう設定するかについての一般理論があり、災害対策に携わる際の5つの役割をベストで色分けして可視化する取り組みが行われています。日本では災害対応を重ねるなかで、実地でお互いに支え合う取り組みが進んでおり、アメリカで生まれた一般理論とうまく融合させて、更なる対応力の強化につなげることが重要になります。また、最後の一人まで誰一人取り残さない防災という最先端の取り組みを進めることは、災害時に限らず日常的な温かい地域コミュニティを構築することでもありと締めくくり、2日間の会議を終えました。

研究戦略センター

研究情報誌「21世紀ひょうご」  
第29号発行のお知らせ

現代社会の課題を的確に捉え、専門的立場から課題を分析・紹介し、具体的な提案を行う情報誌です。第29号では、新型コロナウイルス感染症が現在社会に多くの課題を突きつけたことから、「パンデミックと新たな社会」をテーマに、今後の感染症に対する危機管理の在り方や安全・安心な社会の構築、コロナ後の働き方改革の行方や都市や地域社会の在り方、文化や教育など幅広い観点からの特集を掲載しています。

内容

巻頭言=(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長  
五百旗頭真

特集=「パンデミックと新たな社会」

執筆者

関西大学社会安全学部教授 亀井 克之

早稲田大学政治経済学術院教授 戸堂 康之

兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究所准教授

井上 寛康

東京大学社会科学研究所教授 玄田 有史

大阪府立大学大学院生命環境科学研究所准教授 武田 重昭

上智大学グローバル教育センター教授 東 大作

劇作家・演出家 平田 オリザ

トピックス=第19回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)受賞論文  
B5判 約100ページ

既発行号等については、当機構のホームページをご参照ください。

<https://www.hemri21.jp/research/research-the21-hyogo/>

発行=年2回

購読料=800円(送料別途)

定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円(送料込み)

申し込み・問い合わせ

研究戦略センター

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール [gakujutsu@dri.ne.jp](mailto:gakujutsu@dri.ne.jp)

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、  
広報戦略・ブランディングの  
ご相談を承ります



株式会社 イディー 〒650-0033 兵庫県神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10F  
Tel 078-331-5255 Fax 078-331-7800 E-mail [info@idee-kobe.com](mailto:info@idee-kobe.com) [イディー 神戸](#) [検索](#)

コミュニティ型ワーキングスペース  
「ON PAPER」はじめました!



ON PAPER

<https://onpaper.jp>

ONPAPER 検索



## 兵庫県立美術館

### 特別展「開館 50 周年 今こそ GUTAI 県美の具体コレクション」

兵庫県立美術館では、「開館50周年 今こそGUTAI 県美の具体コレクション」展を開催中です。



山崎つる子《作品》1961年  
兵庫県立美術館

本展では、所蔵品の中から具体美術協会（具体、1954-1972）の作品を取り上げます。このグループは、戦後の日本美術を語る上で欠かせない「GUTAI」として、国際的にも高い評価を受けています。

1970年の県立近代美術館の開館以来、長年にわたって築かれた当館の「具体」コレクションは、充実した点数、豊かな内容とともに、最も誇れるもののひとつです。この展覧会では、兵庫県立近代美術館から現在にいたる50年間の収集を視野に入れながら、ひとつのイメージに収斂しない多角的な「具体」像を考えます。

リーダーの吉原治良は、現代の美術について「厳しい現代を生きぬいて行く人々の最も解放された自由の場」「発刊に際して『機関誌』具体』1号、1955年」と記しています。戦後の復興期に立ち上がり、大阪万博の頃まで旺盛な活動を続けた具体。その強靱な精神は、今を生きる私たちにも、力を与えてくれるのではないのでしょうか。



田中敦子《作品》1958年  
兵庫県立美術館（山村コレクション）  
© Kanayama Akira and  
Tanaka Atsuko Association

会 期 = 2020年12月5日（土）～ 2021年2月7日（日）  
観覧料金 = 一般1,300円、大学生900円、70歳以上650円、  
高校生以下無料

休館日 = 月曜日  
開館時間 = 10時～18時 入場は開館の30分前まで

## JICA関西

### 世界を知って、考えて、行動しよう！ JICA関西訪問プログラム（予約制）

JICAでは、日本政府が行う開発途上国・地域における国際協力事業で培った知見・経験・人材を活用し「国際協力への理解と参加促進」「未来の地球を担う人材育成」を目的に開発教育支援事業を実施しています。自分で何ができるのかを考え、自ら行動できるグローバル人材の育成の一助として、さまざまなプログラムをご用意しています。是非、ご活用ください。



活動体験談の様子

プログラム例 ご希望に合わせて組み合わせられます

1. JICA事業概要説明 (30分)  
JICAとは何? JICA関西はどんなことをしているの? どんな仕組みで仕事をしているの? など、皆さんの知りたいことに答えます。
2. 活動体験談 (60分)  
JICAボランティア経験者や職員から、開発途上国での生活や実際の活動など、実体験に基づいた話を聞くことができます。
3. 施設見学 (30分)  
広報展示室など施設の見学  
12月からはBOSAIについての展示をご覧いただけます。  
当面の間、1日1組、人数限定で実施（事前予約制）  
定休日 = 年中無休（年末年始を除く）

お問合せ先

JICA関西（独立行政法人国際協力機構関西センター）  
開発教育支援事業担当  
TEL 078-261-0384（直通）FAX 078-261-0357  
Eメール jicaksic-kaihatsu@jica.go.jp  
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック！  
<http://www.jica.go.jp/kansai/>



### 世界に広がる日本のBOSAI展 （訪問プログラムをご予約ください）

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災から26年。日本は大地震をはじめ、多くの自然災害にさらされてきました。こうした災害の歴史の中で得た経験や教訓を生かし、さまざまな角度から防災に取り組み、被災からの復興を繰り返しながら災害に強い国づくりへの道を行ってきました。今では、その中で培われてきた独自のノウハウが海外での防災や災害からの復興支援に生かされています。今回は日本の災害経験から得たBOSAIの知見や技術が世界でどのように活用されているのかについてや、国籍や文化の異なる人々へ向けた防災啓発についても紹介します。

防災の大切さ、私達にできる復興支援などについて、改めて考えてみませんか？



展示の様子



## ホームページで「3Dビュー&VRひとぼうツアー(西館編)」を公開中

人と防災未来センターでは、コロナ禍により外出を控えている方や来館が困難な方にも人と防災未来センターの展示をご覧いただけるように、一般社団法人VR革新機構のご協力を得て、西館展示の5G対応3Dビュー・VR映像を制作しホームページで公開しています。

まだ人と防災未来センターを見学したことのない方にも、まずはこの映像でどのような施設であるかを見ていただき、ご来館いただくきっかけになればと思います。

VR映像の鑑賞には専用ゴーグルが必要ですが、3Dビュー映像はパソコン・スマートフォンでご覧いただけます



© VR革新機構 提供 人と防災未来センター

## 企画展「7つの質問 withコロナ時代の減災を考える: 想い・アイデアを共有しよう! ~新しい様式で日々を過ごすために」を開催中

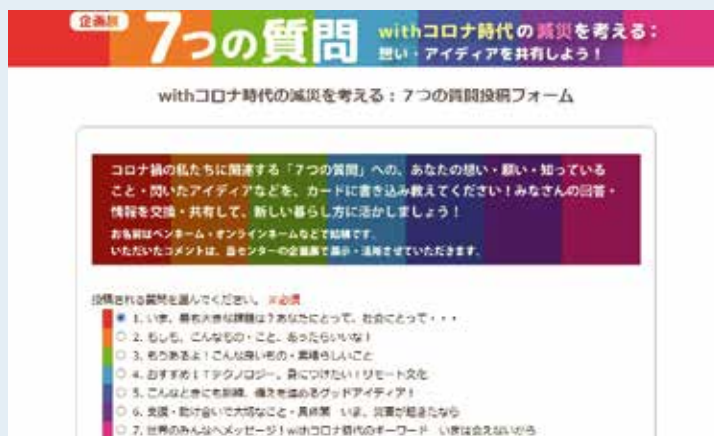
withコロナ時代の課題や新たなアイデアなど7つの質問に対して、一般の方々や専門家などからメッセージを収集しカテゴリーごとに集積するとともに、質問の内容に関連する基本的な情報やコロナ感染症の最新動向などをまとめたミニコラムを展示しています。

なお、この「7つの質問」にはどなたでもメッセージを提出いただけます。企画展特設サイト (<https://hitobou.com/exhibition/covid/>) からご意見をお寄せください。

<開催期間>

令和2年10月20日(火)~令和3年3月28日(日)

<会場>西館2階防災未来ギャラリー(有料ゾーン)



(公財) 公益一般財団法人21世紀研究機構

### 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

#### 開館時間

9時30分~17時30分(入館は16時30分まで)  
7月~9月は9時30分~18時(入館は17時まで)  
金曜、土曜は9時30分~19時(入館は18時まで)

#### 入館料金

大人	大学生	高校生/小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料

[障がい者]

大人	大学生	高校生/小・中学生
150円(100円)	100円(50円)	無料

[70歳以上の高齢者] 300円(200円)

( )は20人以上の団体料金  
毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

#### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日) 12月31日と1月1日  
ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休  
資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

#### 交通

**鉄道**

- 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- JR「灘」駅南口から徒歩12分
- 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

**バス**

- 三宮駅前から約15分

**車**

- 阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- 阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- 阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

有料駐車場あり バス待機所(予約制/無料)あり

